学習成果の活用支援に関する
調査報告書

－茨木市出番づくり応援相談会を通した試行調査より -

平成 30 年 10 月

特定非営利活動法人　地域学習プラットフォーム研究会

はじめに

人生 100 年時代と言われるようになり、私たちのライフサイクルにも変化が見られる。職業に就く現役期間も長くなり、定年退職後も職業に就く割合が多くなった。また、大量生産時代と異なって企業も現在は多様な価値観が求められ、新たな職業の中で活躍を目指す現役世代も増えている。地域においても課題解決に多様な人材が求められている中で、市民の豊かな知識と経験が社会に生かされることが期待される。

このような時代背景の中で、身につけた知識、学習成果を仕事や地域活動に生かしたいとする者は多い。内閣府世論調査[*1] では、「生かしたいと思う」または「どちらかといえば思う」が77.7%を占める。このような期待に対して、全国の生涯学習センターや地域の社会教育施設（以下、支援機関）を対象とした文部科学省の調査[*2]では、都道府県で73.8%、市区町村で57.1%が学習成果の評価・活用を「非常に重視」または「ある程度重視」と答えているが、実態はどうであろうか。

市民の学習成果の活用に関する意識調査の一つとして、富山県民生涯学習カレッジ（以下、県民カレッジ）の学習者を対象に行った調査がある[*3]。全国を対象にした調査と同様に、72%が学んできたことや経験を生かしたいと「強く思う」または「思う」と答えている。一方、富山県内の公民館等の社会教育施設へ行ったアンケート調査[*3] では、「県民が主体的に行う活動を支援している」と答えたのは8.7%にすぎない。支援していない理由として多く挙げられたのは「ボランティアや地域活動を志す人が少ない」(16.1%)、「地域課題や現代的課題の把握と求められる人材を把握していない」(11.9%)、「支援のノウハウがない」(11.9%)と続き、「職員の減少の問題」(9.2%)を上回る。このように、市民の意識と支援機関の取組に大きな開きがあるのが実態ではなかろうか。

学習支援機関ではこれまで「学習の入口」、「学習機会の提供」を支援する枠組みで多くの事業が取り組まれてきた一方、「学習成果を生かす」出口の支援に着目した事業があまり見られない。市民の学習支援の接点を多く持つ支援機関には、「学習の入口」だけでなく、学習成果活用の可能性を引き出す「出口」を支援する役割が求められていると言えよう。

本試行調査は、このような背景認識をもとに、学習成果の活用を支援する方策、特に学習成果活用相談の役割と機能を実践的に研究し、今後の生涯学習センター等の相談の場に活用されることをねらいとするものである。

平成 30 年 10 月　柵　　富　雄

*1 内閣府「生涯学習に関する世論調査」（平成 24 年 7 月調査）、2013
*2 文部科学省「生涯学習センター・社会教育施設の状況及び課題分析等に関する調査」報告書、2012
*3 地域 e パスポート研究協議会「学んできたことや経験を生かした活動に関する調査」（平成 25 年 12 月調査）、2013

目次

1　試行調査の目的…… 1
2　実施方法と経緯…… 2
3　実施結果…… 6
4　評価と考察…… 14
5　今後に向けて…… 27

資料編…… 30

1　試行調査の目的

市民の多様な知識と経験が生かされる可能性には、企業等での就業のほか、社会に求められる新たなサービスの起業や次世代への知の伝承など、さまざまな社会活動が含まれる。それらの社会活動に生かされる、あるいは求められる学習成果も多様な観点が考えられるが、市民自らが経験や学習歴を多様な観点で意味づけし、職業や地域・社会に潜在するさまざまな活用機会として捉えることは容易ではない。たとえば、富山県民生涯学習カレッジを中心に行った「学習成果活用支援試行調査」では、「生かせるかどうか自身では分からない」や「生かす目標が具体的でない、あるいは願望に留まっている」とする市民の課題が指摘されている。このため、これらの市民に対して具体的な活動に結びつくよう支援する側（相談員等）も力量が求められる。

本研究は、今後にこれらの学習成果の活用支援に取り組もうとする生涯学習センター等を想定し、その取り組みに資するよう次の研究を目的とする。

(1)「学習成果活用支援プログラム」の改善

上記に取り上げた富山県で「学習成果活用支援プログラム」のプロトモデルを開発した。このプロトモデルについて実証的に評価し、問題点・改善点を探る。

(2) 学習成果活用支援を担う相談員の役割を明らかにする

多様な相談にあたる相談員の支援に着目し、「相談員研修プログラム」の開発や実践体制の整備に資する。

2　実施方法と経緯

本調査は、茨木市が平成 29 年度事業として実施する「学習成果を活用する出番づくり応援相談会」との共催により実施した。

茨木市は、大阪府で唯一「生涯学習都市宣言」（平成 10 年）を行い、「生涯学習」推進に力を入れている。

生涯学習推進は、茨木市立生涯学習センター「きらめき」を推進拠点として、市内 34 ヶ所の公民館等を通した多彩な事業が展開されている[*4]。中でも、ボランティア講師を募集し、生涯学習センターでの講座の開催や、地域では放課後子ども教室で多くの講座が開催されるなど、市民の学習成果の活用を推進していることが注目される。本調査研究が目指す生涯学習センターの今後の取り組みにもつながるとの共通理解をもとに協力して取り組むこととした。

*4 茨木市立生涯学習センターきらめきホームページ（https://www.kira.city.ibaraki.osaka.jp/s_center/）を参照

2-1 全体の流れと経緯

本試行調査は、茨木市出番づくり応援相談会」の開催に沿って図 1 の流れで実施した（図 1）。

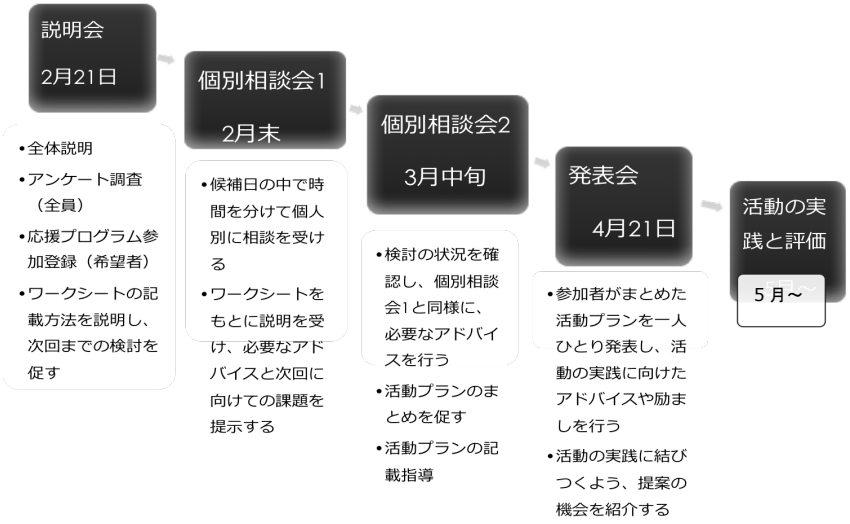


図 1　茨木市出番づくり応援相談会　実施の流れ

2-2 相談員

本試行調査にあたり、次の 3 名に相談員として協力を依頼した（表 1)。

表 1　相談員

中村敬司氏（相談員 A)	茨木市シニアプラザ事務局職員	元会社員	60 代男性
御舩朋昭氏（相談員 B)	茨木市立生涯学習センター非常勤嘱託員	元教員（学校長）	60 代男性
久保裕美氏（相談員 C)	茨木市立生涯学習センター所長		60 代男性

2-3 アドバイザー

本試行調査にあたり、生涯学習推進の元行政職員や教育研究者、社会教育機関紙編集者から構成するアドバイザーの協力を得た（表 2)。

表 2　アドバイザー

今西幸蔵氏	神戸学院大学人文学部教授
藤田公仁子氏	富山大学地域連携推進機構教授
岡本和夫氏	生涯学習研究者 大阪市立総合生涯学習センター前所長
近藤慎司氏	「社会教育」編集長

＊所属は平成 30 年 3 月末現在

2-4 相談者の募集

茨木市広報等を通じて市民の参加者を募集し、3 名の応募を受け付けた。
参加者の属性は次のとおりである（表 3)。

表 3　相談者（応募者）

A さん	60 代男性	無職	元研究者
B さん	60 代女性	無職	元会社員
C さん	60 代男性	無職	元教員

2-5 説明会

平成 30 年 2 月 21 日開催、茨木市立生涯学習センターきらめき

・出番づくり応援相談会の趣旨・体制と全体の流れの説明

・試行調査としての趣旨説明

・参加者の取り組み方説明

・ワークシートの配布と記載要領の説明

・参加者アンケート（事前）の記入

・活動事例の講演

・今後の予定の説明

2-6 個別相談会

参加者（相談者）と相談員による個別相談会を開催した。

・3 月 5 日　午後 1 時 30 分～　茨木市立生涯学習センター

相談者　A さん

相談員　相談員 A、相談員 C

オブザーバー　柵

・3 月 7 日　午後 1 時 30 分～　茨木市立生涯学習センター

相談者　C さん

相談員　相談員 B、相談員 C

写真 1　個別相談の様子

・3 月 7 日　午後 3 時 30 分～　茨木市立生涯学習センター

相談者　B さん

相談員　相談員 B、相談員 C

・3 月 14 日　午後 1 時 30 分～　　茨木市立生涯学習センター

相談者　C さん

相談員　相談員 B、相談員 C

・3 月 14 日　午後 3 時～　　茨木市立生涯学習センター

相談者　B さん

相談員　相談員 B、相談員 C

・3 月 21 日　午後 1 時 30 分～　茨木市立生涯学習センター

相談者　A さん

相談員　相談員 A、相談員 C

オブザーバー　柵

2-7 発表会

相談者がそれぞれ作成した活動プランについて、参加者による発表会を開催した。相談員や本試行調査のアドバイザーより、活動プランの評価や今後の活動に向けてアドバイスを行った。

平成 30 年 4 月 23 日　午後 1 時 30 分～　茨木市立生涯学習センター

発表者（相談者）3 名、相談員 3 名、アドバイザーほか 3 名

写真 2　活動プラン発表会の様子

・活動プラン発表

・相談員、およびアドバイザーからのアドバイス

・相談会の振り返り（意見交換）

・アンケート

・今後について

2-8 相談者フォロー

活動プランを作成した相談者に対して、具体的な活動に結びつくよう、事後フォローを行っている。

・活動プラン発表者に向けたアドバイス、応援メッセージの提供

・活動状況の把握とアドバイス

3　実施結果

3-1 活動プラン

3 名の参加者全員が活動プランを作成し、発表会で発表した。相談員、アドバイザーからの評価とアドバイスは表 4 の通りである。

表 4　活動プラン発表者へのアドバイス

【Aさん】

活動プランへのアドバイス・支援方法				活動に対する応援メッセージ
実績	目標	課題	取組み	
・今までの自分の実績も含めて自分史を振り返って整理してみるのも大切です。 ・これまでの実践をもう少し踏み込んで振り返ってみるも良いと思います。 **具体的には、**Aさんだからこそできたことはなんだったのか、「自身」を客観的に考え**ることが**「Aさんらしい」活**動、**「Aさんに頼むのが一番いい」という活動の目標作りに結びつくでしょう。	・将棋で一歩を踏み出されますね。 やりがいを感じていただいたらと思います。 ・学習者の目線で自分が一番楽しいと考えることを整理して、何を子どもたちに伝えたいのかを見つけることも大切です。 ・活動には様々な側面があります。実際に指導にあたったり、グループのコミュニケーションを促進したり事業そのものの準備や運営など、でも実際に教える側に立ってみることが勉強になります。 **・目標とされたことで、**Aさんならではのことは何か、より明確にされると関係機関の方への説得力が増すと思います。 相手の機関からすると、どれをとるか選択せざるを得ないことも案外多いようです。	・学ぶ楽しさを今後も続けて、楽しんでほしい。 長期的に考えることも大切です。 自分の想いと相手の想いの違いの要因を追求しつつコーディネートすることも大切です。 ・ああいい感じで活動されているなという手本となるような人、ロールモデルを見つけられるといいですね。 ・取り組みにあたっての課題もある程度分析されているようです。 ・相手の組織、人のことを理解しようとしている姿勢を感じます。 その結果、ご自身と相手のニーズや期待がうまく合致しないこともあるかもしれません。 その時に考えたことを記録に残しておくと、次につながるものになります。 （ご自身だけの記録で良いです）	・一番大切なものは？一番楽しいものは？ さらに趣味を広げて探してほしい。 ・ご自分に行動力があり、市役所や外郭施設に掛け合って、近隣の小学校等にご自分の活動の場所を開拓・営業してこられました。 ・学習者の目線を大切にしながら、一つ一つできることを重ねていくことも大切です。 ・実際に活動を始めて、その振り返りを行い、改善していくという繰り返しにより良くしていくことができると思います。 そのためにも、活動のなかで記録を残していくことは大事です。	・いろいろなことにチャレンジされているので、それを生かして頑張ってください。 ・自信を持って幅広く活躍してください。 ・今後も、多角的に情報収集に動かれ、さらなるご自身の行動力・開拓力発揮に期待します。 ・学習者が主体の活動を目標に、自分自身が楽しめることも、一番極めることを時間を費やしながら形にしてください。 ・積極的に関係先の話を聞いたり見学に出向かれています。また、図書館などで同世代の男性などが何か活動の場を求めていることを感じてもおられます。多くの人は一歩を踏み出していくきっかけがなかなかつかめません。どうすればそのような気持ちを生かしていけるの**か、**Aさんご自身がこのような事業を通じて発見・発信していただけたらと思います。 ・具体的に実践が始まるようですので、ご活躍を楽しみにしたいと思います。 そこで、今回始めることができた経緯や始めてからの状況の変化、お考えの変化などをまとめておき、ぜひこれからの人のために役立ててていただくとうれしく思います。

【Bさん】

活動プランへのアドバイス・支援方法				活動に対する応援メッセージ
実績	目標	課題	取組み	
・自分の振り返り、実績をよく整理されています。 今までの人生の延長線上に、これからの人生を考えているところ 自分自身の考えに自信があるところが、いい意味で応援したいです。 ・フラワーセラピーについては、単発的な活動を始めていらっしゃるようですが、フラワーアレンジメントの経験や資格・指導実績はいかがでしょうか。 ・とても分かりやすい説明です。	・自己肯定感を得ることはとても大切です。 ・カウンセリングをもっと学ばれるとともに、自分なりの目標値と次の課題を見つけながらステップアップされ、高い目標を設定してください。 ・活動の機会を増やしていくためには、いろんな活動にまずは参加してみること。生涯学習や福祉、学校など様々な場で講師やボランティアの募集や登録を行っています。 ・バリバリと仕事の実績を積まれてきたようです。その経験の中で今後の活動に生かせるもの、むしろ意図的に気持ちを切り替えた方がいいものを切り分けてどう整理していくかですね。	・カウンセリングを深く学ばれればさらに良くなると思います。 ・活動しながら自分の足りない部分、スキルアップの部分を幅広く学んでください。 ・Bさん自身がなぜ＜花＞なのか、花のどこにひかれているのか花を生けることがどのように人の心に働きかける力を感じたのかもう少し聞かせてもらいたかったですね。 ・対象となる高齢者や子どもたちが、一人ひとり違うことをふまえ、カウンセリングスキルの勉強が役立つでしょう。	・とても面白いです。 フラワーアレンジメントとの違いが良くわかりました。 ・現在のニーズにマッチしている取り組みです。 スイセラから何か始まりそうです。 応援隊、ネットワークを増やす取り組みを心がけることも大切です。 ・セラピーや居場所を必要とする人々のために活動を続けたいということであれば。活動の場づくりが必要。団体や施設などとの連携や志を同じくする仲間が必要。セラピー面での評価のために記録や振り返りは同じように着実に積み上げてください。 ・実践では、対象者から見てどうだったか分析し、改善すべき点はどこか考え、次に生かすという繰り返しが大切です。	・実践を通して経験を積まれ、受講生のお力になってあげてください。 ・すでに実践されていますので何も言うことはありませんが、茨木市での活躍を期待します。 ・活動のニーズは多いと考えます　。Bさん自身も楽しみながら、参加者の笑顔を増やしてください。 ・方向は大体決まっておられ、また、色々と技能をお持ちであると思われるので活躍の場を確保することに尽きます。 ご要望の条件が合えば対応する高齢施設を具体的に紹介してみたい。 ・退職後、家族の介護等で大変な経験を持ちです　。そのようななか**で、**Bさん自信が花に救われた経験をお持ちなのでしょう。 花にふれることが心を開く機会であるとともに創作活動の場となるような広がりを持ってほしいなと思います。活動への意欲や実行力がお話からうかがえます。ご活躍をお祈りします。 ・退職を機に、自身の新しい活動の道を拓こうとされています。 これまでの組織社会とは異なることに戸惑いながらも、それを乗り越えていこうとされている姿勢に共感を覚えます。 そのように新しい自分を作っていく中で、さまざまな学びの必要性に気づくこともあるかと思います。その学びの機会を大事にしてください。

【Cさん】				
活動プランへのアドバイス・支援方法				活動に対する応援メッセージ
実績	目標	課題	取組み	
・事故前にやっておられたことと違うことにチャレンジされる方が良いのでは？ ・実績は豊富にあると考えます。今、体験することは・・ これからどのような部分の実績を伸ばしていきたいですか？ ・幅広い興味や関心と活動の実績をお持ちです。その力が、今、実際にどの様な人を対象にどのような場面でどう生かしていけるかということについて、立場を変えて考えてみてください。 ・豊富な実践をお持ちです。 そこで、ご自身が実践することができたのは、仲間や環境などどのような要素があったのか、また、実践できなかったことは、どのような理由だったのか、自身の不得手なことも理由だったのかなど、客観的に振り返ることが、これまでの実践を生かすことの出発点になります。	・昔の経験に基づいて新たな目標を設定しているが、対象があっていないのでは？ ・「これからの自分」の一番の目標はなんですか？ 「自分のこれから」を考えることが必要ですね。 学習者の想いとの双方向性も大切ですよ。 ・社会や学校の環境、教育や活動の内容なども求められるものは時代の変化につれて変わってきています。 ・事故を乗り越えて、また活動の成果を得ようとする姿勢が感じられます。 　ご自身の実践を客観的に振り返った上で、生かしたい相手にそのニーズがあるか、その方法はどんな方法が適切か、今すぐ必要とされているか、相手の側から考えてみることが大切です。 その結果、いずれ目指したい目標と、今、相手に受け入れてもらえそうな目標を分けてみてはいかがでしょうか。	・「現在の自分」は何をしたいですか？　「何ができるのですか？」、整理することで自分の今の課題が見つかります。 ・ニーズとのマッチングも必要です。 学校の教育と学校外の教育（社会教育・生涯学習）の違いに留意していく事も大切です。生涯学習などの市民活動は長年続けてきた仕事とは少し異なるスタイルがあります。参加者の自由意志が基本ということですかね。 ・対象者についての理解、対象者に責任を持つ組織の役割などを具体的に出てきたところで、プランを再考してみてはいかがでしょうか。	今後新たなことへのチャレンジを望みます。 ・肉体的・精神的・年齢的にも、今までの経験・ノウハウを生かし、後進指導者の育成・カウンセラーのような立場で活躍・尽力願いたい。 ・今まで活動してきた団体との相談が必要と考えます。 自分の役割を新しくつくってみてはいかがですか？	・思いはあるが実行に移される場合の課題が多いので、もっと検討する必要があります。 ・たくさんの引き出しから、最も自信のあることに絞り、対象者を想定したきめ細やかな活動内容を考えてください。 ・ご本人の保有するノウハウを整理し、後進に伝達することにより、その後進とともに活動できるような立ち位置を確保されることを望みます。 ・新しい扉を開いてください。 ・事故にあうまえの自分をとりもどしていきたいという強い思いに打たれます。それだけの努力を重ねておられることも敬服します。 ・生涯学習は、かってのお仕事のように、教えると言うよりはともに楽しむという視点が重要だと思います。実際にやっていきたいと考えておられることは、いづれも体制や条件整備、とりわけ安全面の配慮が必要なものばかりです。徐々に回復されてきておられるようなので、一緒に活動する仲間やグループを見つけてどれか一つでも協力しながら始められるのがいいように思います。 ・生かしたい相手がすぐにプランを理解し、受け入れてもらえるとは限りません。むしろその方が多いのが現実です。 その時、今一度、相手の状況や組織としての状況について理解を深めることも必要になります。 Cさんが聞き役になり、相手の抱えている課題や悩みを話してくれるようになると、自然にCさんが期待される役割も見えてくるかもしれません。それは、ご自身が考えていたことと違う役割かもしれませんし、案外、ご自身も気づいていない良い点が期待されるかもしれません。

3-2 相談会終了後の実践状況

発表会後、それぞれ仲間や関係機関等と具体的な活動に向けた動きが見られた。

その結果、3 名の参加者がいずれも新たな活動に結びついている。

A さん

生涯学習センターのボランティアとして、新たなに講座を開催しようとする市民のサポータとして活動している。

B さん

活動プランに掲げた新たな教室を開催し活動を広げた。

C さん

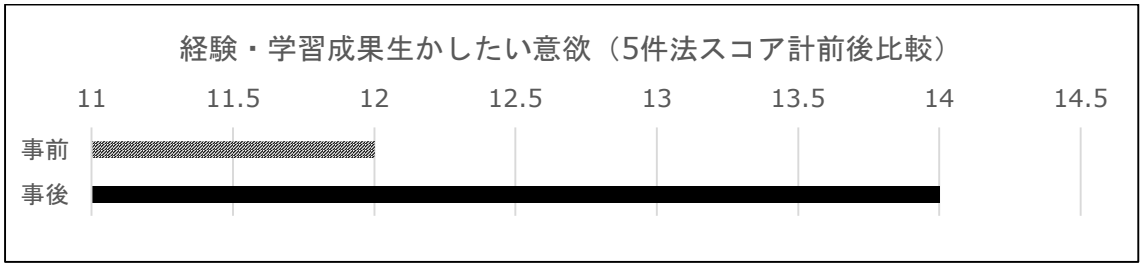
自ら掲げた目標を、仲間の活動を応援する形で取り組んでいる。

3-3 参加者アンケート結果

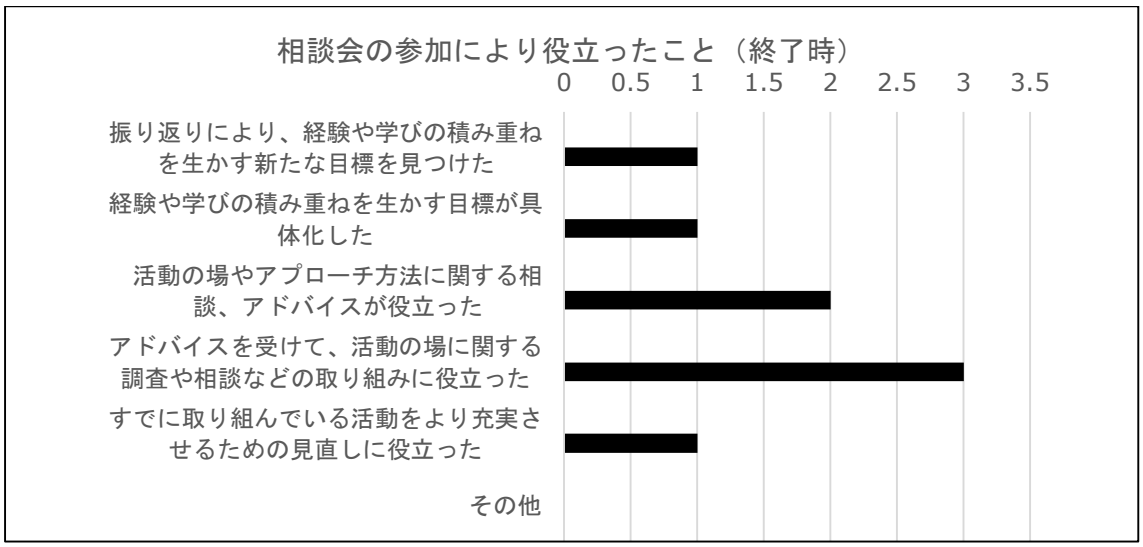
参加者に相談会の開始と終了時（発表会）にアンケート調査を行ったところ、次の通りであった。

1　参加者全体での前後比較

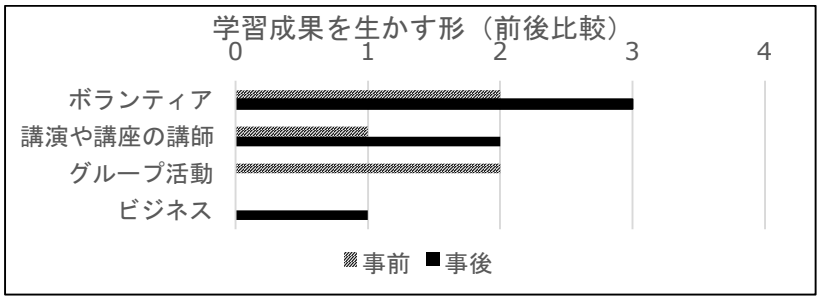
・経験・学習成果を生かしたいという意欲は応援プログラムの参加を通して高まった。（図 2）



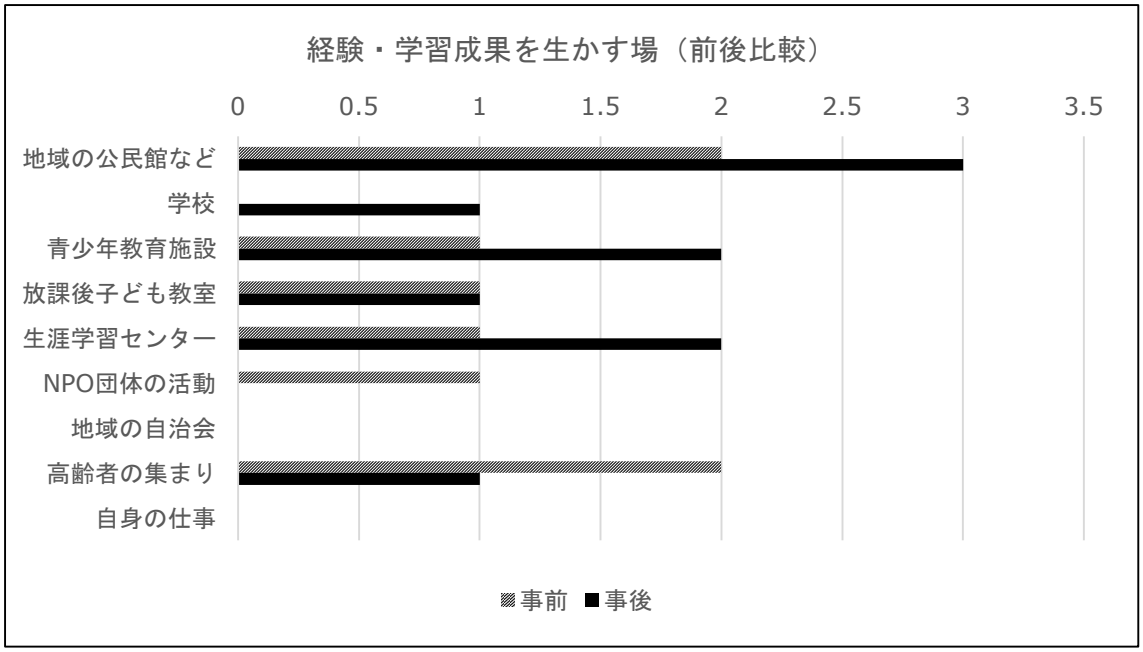
・参加により役立ったこととして、参加者全員が「活動の場に関する調査や相談など」を行うことに結びついたことを挙げている。関連して、活動したい場にどのようにアプローチしたらよいか、アドバイスが役立ったという回答も多い。（図 3）



・生かす形としてはボランティアとしての活動を望む者が最も多い。また、グループ活動が減る一方で講師やビジネスという個人としての活動の希望が増えている。（図 4）

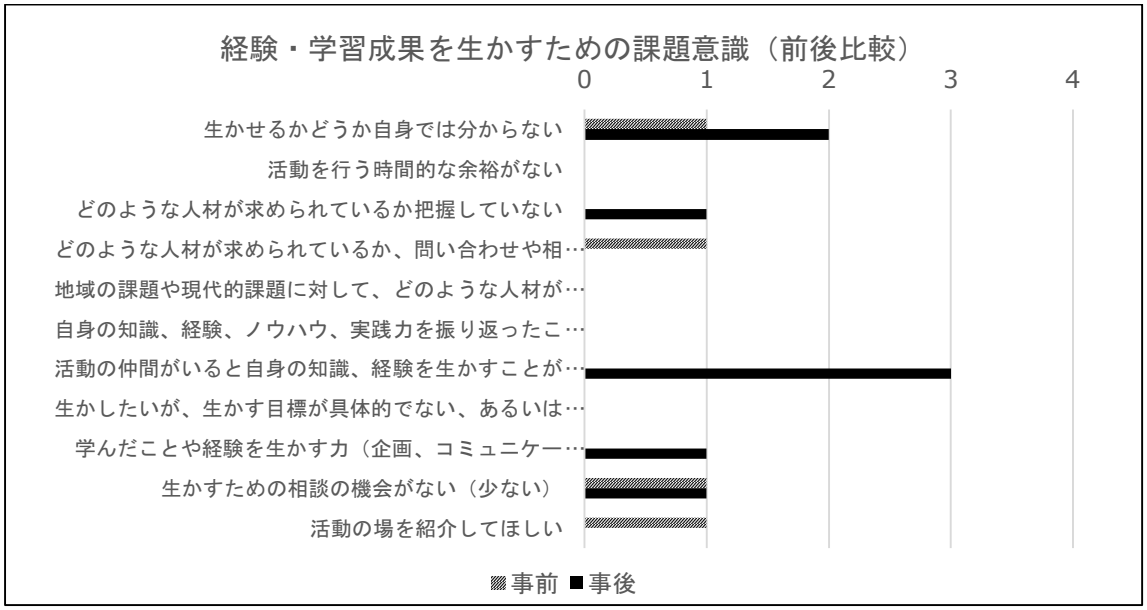


・生かす場としては、多くの選択肢を対象に挙げているが、地域の公民館、青少年教育施設、生涯学習センターでの活動の意向が増えている。（図 5）

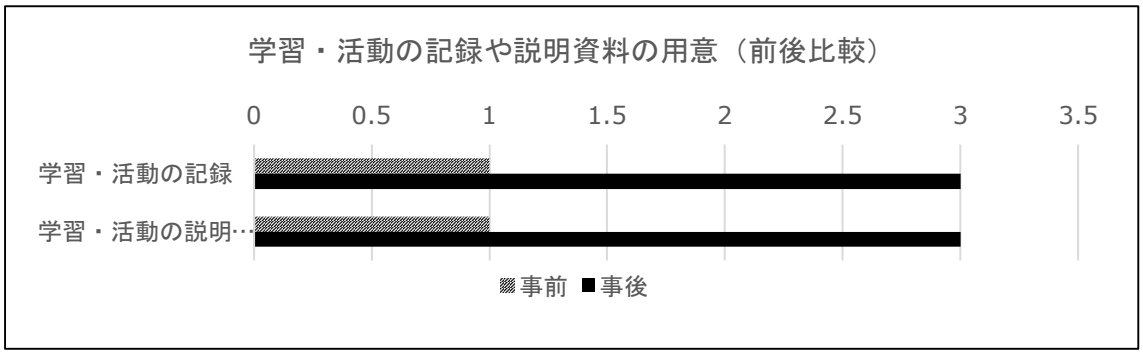


・応援相談会開始時は、生かすための問題意識として、「生かせるかどうか自身ではわからない」とする者が多い。また、「生かすための相談の機会がない（すくない）」や、「どのような人材が求められているか把握していない」も挙げられている。自身の知識・経験と求められる知識・経験のいずれも不確かな状況がうかがえる。（図 6）

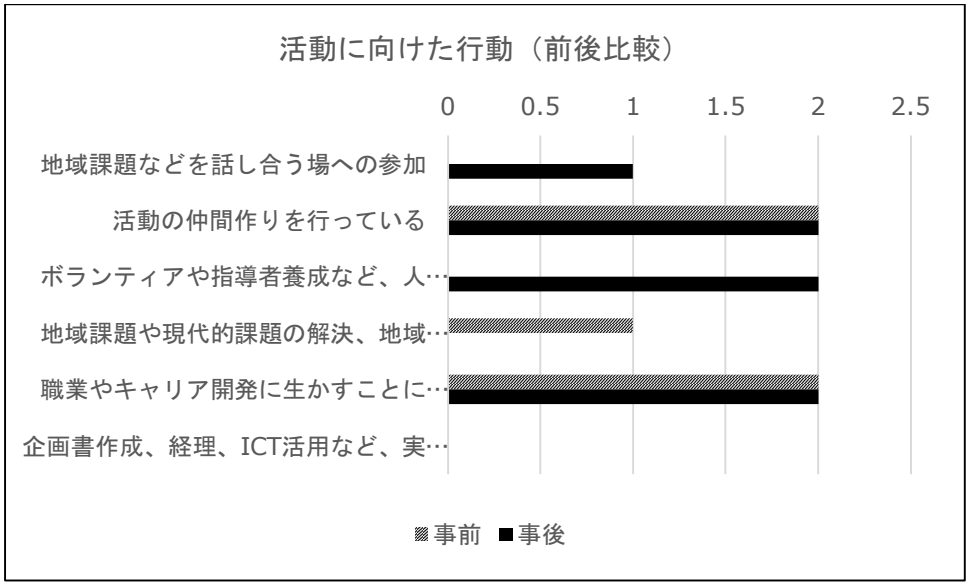
・応援プログラム終了後では「活動の仲間がいると自身の知識・経験を生かせる」が大きく増えている。目指す活動が明確になった一方で、その実現には一人では難しいことを理解した結果とも推測できる。仲間で補い合いたいという意識のほか、自身の知識・経験の客観的な評価を得ることへの期待も含まれていると考えられる。（図 6）



・学習や活動の記録に関する資料は、応援プログラム参加前はあまり用意されていなかった。今回の受講を通して資料を整備している。自身の学習・活動の実績を活動の対象とする相手に説明するための資料の用意は、重要な行動の変化と捉えることができる。（図 7）



・応援プログラム参加によって変化した行動は、「地域課題などを話し合う場への参加」や「ボランティアや指導者養成など、人材育成の機会の参加」である。具体的な活動を目指して自身のスキルアップや情報収集に積極的な姿勢がうかがえる。（図 8）

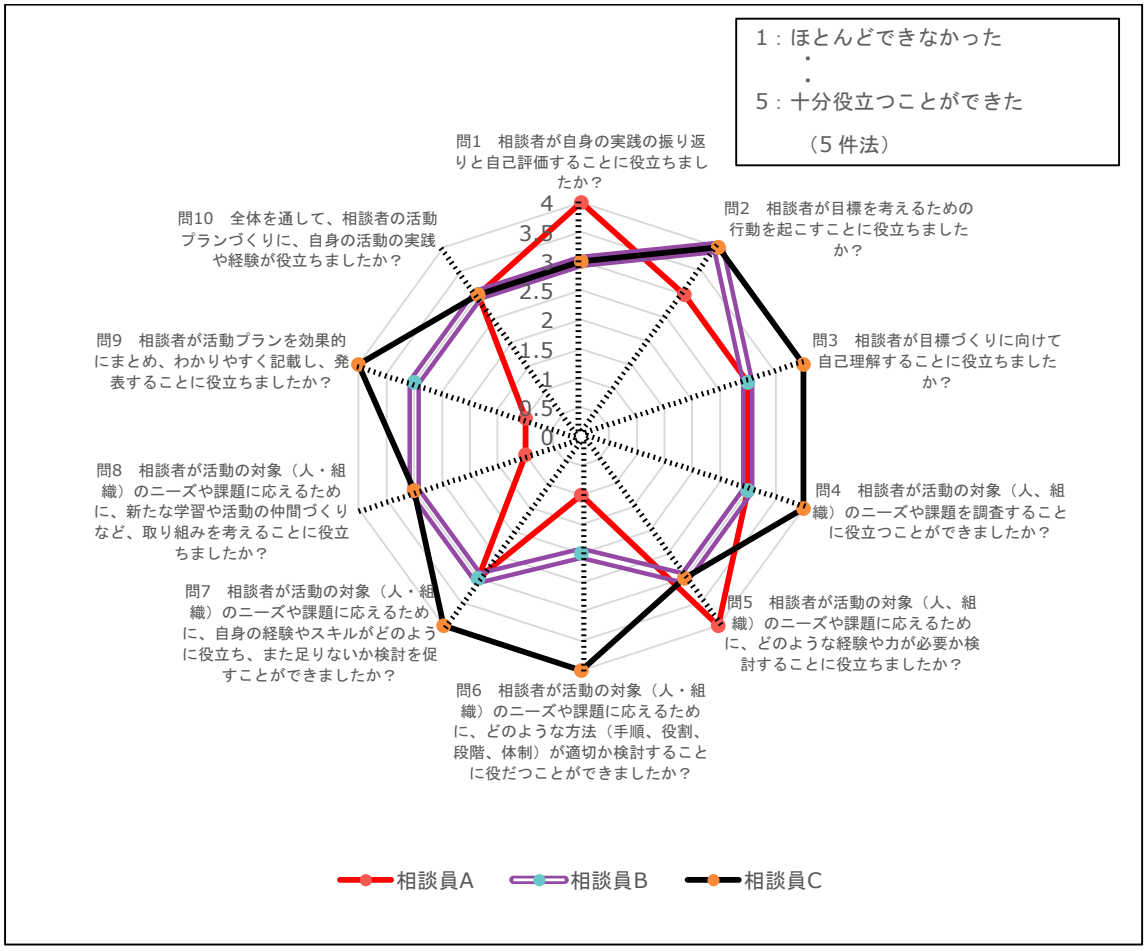


3-4 相談員の自己評価

応援会終了後に 3 名の相談員にアンケート調査を行った。

1　相談員自己評価（1）

相談会を通して相談者にどのように役立つことができたか、10 項目について自己評価を行っていただいた。（図 8）



相談員 C は各項目共に概ね役立ったと答えているのに対し、ほかの相談員は、活動の方法について検討することには役立つことができなかったと答えている。また相談員 A は、活動に向けての取り組みや活動プランのまとめと発表についてはほとんど役立つことができなかったとしている。

次に、「どのような言葉が効果的だったか、または必要だったか」、自由記述で回答を得た。

・「よい経験をされていますね」「十分活用できますよ」など、肯定することは容易いが、考え直させる、再考させる場合の支援の言葉が難しく、相手に素直に伝わったか否かに疑問を感じる。こちらにも、それほどの経験や実績がないことがその理由だと考えられる。すべての人に「やってみましょう」「頑張ってください」とは言えない。

・「ご自分の経験をペーパーにまとめてみましょう」

・十分な経験や実績のある相談者には「十分できますよ」「〇〇で活用できますよ」など、励ましや活用の場を紹介することができたが、そうでない方には、「何を、どこで、どのように」のレベルから考えさせる言葉かけが難しかった。といって、「それは間違っています」などと言えればよいが。

・「目標を達成するために、その目標となる事柄をよく調べてみましょう」

・特に、コミュニケーションが十分取れない方には、自己理解させることは難しかった。自分の中で、適切であるか否かを問わず、思いが固まっている場合は、こちらの助言を聞こうとする姿勢が見られない。明らかに実現不可能なことには、「それは無理です」と、はっきり伝えることが大切である。可能・不可能、適切・不適切を整理させることが必要である。

・「目標に向けて、いろいろと学んだ結果、現在のあなたがその試みを行うためにはどんな知識が必要とされ、現状では満足できていますか」

・「〇〇に相談しては」「こちらから連絡を取りましょうか」など、具体的に紹介することが必要である。それにより、相談者も具体的に行動に移ることができる。しかし、適切でない場合には、安易に活動場所等を紹介するのは控えるべきである。

・「実際にその活動をしている方があるなら、あなた自身の目で見極めてみたらいかがですか」

・現在、私がシニアプラザで活動しているコーディネート内容

・経歴などが豊富であったとしても、それが適切か否かは不明であるため、「誰を対象に考えているか」「どのような効果が考えられるか」など、具体的に整理させる必要がある。

・方法について、相談員が十分な知識を持っていることが必要になる。「〇〇で活用できます」と伝える自信がないと難しい。

・「あなたが活動の対象としようとしている方々のニーズをあなたはどのように考えていますか？」

・すべてのニーズに応えることは難しい。相談員であっても、あらゆる場面での経験がないため。

・「ニーズに応えるために、あなた自身の経験や知識などをどのように役立てようとしていますか？」

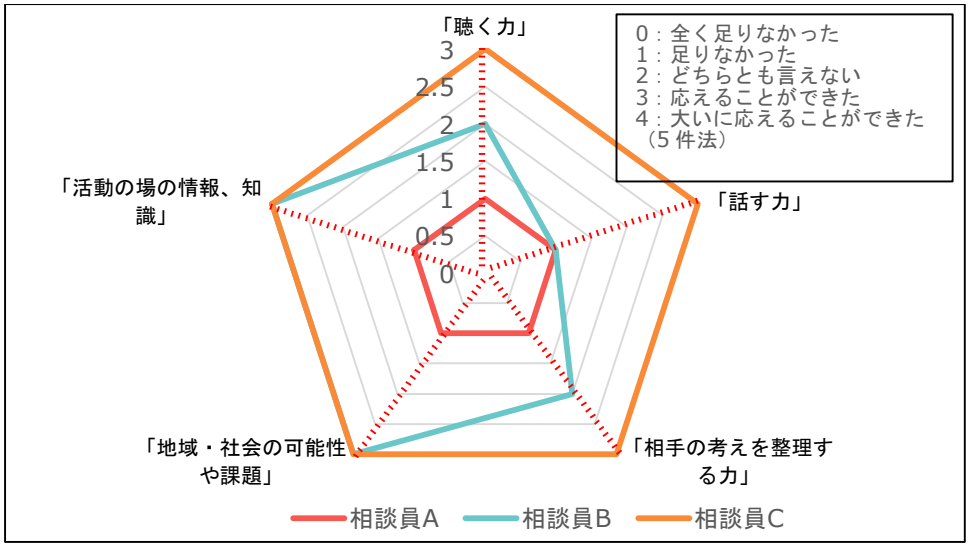
・こちらの助言を素直に聞くことができる場合はよいが、そうでない場合は難しい。

・「現在のあなたの経験や知識をさらに高めることによって、活動の対象者は実施後にはより満足のいく結果が得られると思いませんか？」

・小学校勤務であったため、学校現場の状況や放課後子ども教室などについては、自信を持って伝えることができた。相談員であっても、すべての方に対応することは難しい。得意分野での助言が適切である。

相談員自己評価（2）

設問「相談員として、どのような力が役立ち、あるいは足りないと感じましたか？」について、各相談員の回答は次の通りであった（図 9）。



5 つの力について、いずれの相談員も良い評価を行っていない。特に「聴く」、「話す」、「相手の考えを整理する」という、会話力、コミュニケーション力について足りなかったとしている。

最後に、「学習成果の活用を促す相談員としてどのような力を身につけることが必要か」について、以下の自由記述があった。

・相談者に適切な助言をする力が必要である。また、生涯学習全般にかかわる知識も必要である。

4　評価と考察

個別相談会の相談記録紙や音声録音記録をもとに、参加者（相談者）と相談員のそれぞれについて分析を行った。

4-1 参加者を視点とした評価と課題

A さん

さまざまなテーマの活動を模索し、相談員も活動に結びつくよう根気強くアドバイスを行ったが、結果として異なる形で新たな活動を始めた。具体的には、今回の相談会が開かれた茨木市立生涯学習センターで、講座を開催しようとする市民をサポートするボランティア活動に取り組んでいる。自らが矢面に立つより他者への支援を行うことにやりがいを感じていると推測される。その点では相談会への参加によって活動のチャンスが生まれたと言える。一方で、相談会の参加によって本来の期待についてどのような有益な効果を得たか不明である。アンケートでは相談会参加の前後を通して「職業やキャリア開発に生かすことにつながる講座等への参加」を考えていることから、企業での研究の経験をいずれ何らかの形で生かしたいという期待を持っていることがうかがえる。

B さん

相談会開始時より取り組みの目標が具体的であったことから、相談会終了後に新たな教室の開催という形で活動に結びついた。結果として、相談員のアドバイスによって活動が大きく変わるものではなかったが、終了後のアンケートには、今後にビジネスとしての活動も挙げている。セカンドキャリアとして育てていきたいという期待もうかがえるが、今回の相談会でそのための検討や情報を得たかどうか（提供できたかどうか）は不明である。

C さん

定年後にアクシデントに遭い様々な悩みを持ち、もう一度元気な頃に戻りたいという強い思いが、活動を考える主とする動機だった。さまざまな活動を模索するが、過去の経験を生かしたいとする「提供者」の目線にこだわる一方で、生かそうとする場や対象者のニーズにあまり目が向けられていなかった。相談員のアドバイスを受けて、相談会終了後もグループや仲間を探していたが、目指す活動に近いテーマですでに活動している仲間を応援する形で活動が始まった。相談会への参加によって活動の方向を変える良い機会を得たと言える。

相談会参加時の状況や結果は三者三様であったが、共通点を挙げることができる。三者ともに退職後の地域社会との新たな関係を模索してきたものだった。長く勤めた仕事をリタイアすることは、それぞれの人生のライフサイクルの中でも大きな転機にあた

る。それまでの目標や社会との関係性は、多くは組織を通して関わってきたものであるが、退職後は目標と活動に自らが責任を持つことになる。活動の場として挙げられている公民館等の地域の施設には、それまではあまり関わる機会がなかったことも考えられる。このような不安を持ちながら相談会に参加した三者からは、終了後のアンケートで、「アドバイスを受けて活動の場に関する調査や相談などの取り組みに役立った」、「活動の仲間がいると自身の知識、経験を生かすことができる」と三者ともに答えているのは、その表れとも考えられる。

4-2 相談員を視点とした評価と課題

3 名の相談員は、前職や経験の違いから三様の対応が見られた。

A 相談員

相談者と同じ目線で対応されているところに特徴が見られた。これは、シニアプラザで今回の相談者と同世代の市民と接していることや、相談者と一緒に考えるという立ち位置を決めていたことが挙げられる。

相談者がなかなか目標を定めない状況が続き、一緒に悩む形で相談が進んでいる。それでも相談者にとって一緒に考えてくれる人の存在は必要だったようである。

B 相談員

学校教育の長い経験から、責任を持ったアドバイスを行うことに慎重さが見られた。学校現場では児童生徒への対応に慎重にならざるを得ない状況があり、社会人の相談者にも同様の責任感を持った対応を行っている。特に実現不可能と思う目標を示す相談者に対して、どこまで言ってよいか戸惑う場面が多かった。そこには、自らの経験、知識に照らし合わせて実現可能かどうかを判断することがアドバイスの前提となっていた。

相談の回を重ねていくなかでこの考え方を変えている。相談者が示す目標の実現性や活動方法の適否を判断するのは相談者自身という考え方に立ち、相談員はその検討を促し情報を提供することを行うようになっている。

C 相談員

他の相談員を側面からフォローする立場で参加している。相談者とのやりとりがうまく進まない時に、状況を変える言葉が効果的に出されている。

3 名の相談員に共通することとして、「相談者の自己決定」を重視するという立ち位置が挙げられる。このことは、相談員の知識、経験を超えて、多様な相談者に対応する際のキーとなる考え方であることが、あらためて確認された。

そのような状況のなかでも、相談者に自己理解を促し活動目標の検討へと一歩進める効果的な言葉も挙げられる。以下、列挙する。

・「ご自分の経験をペーパーにまとめてみましょう」

・「目標を達成するために、その目標となる事柄をよく調べてみましょう」

・「目標に向けて、いろいろと学んだ結果、現在のあなたがその試みを行うためにはどんな知識が必要とされ、現状では満足できていますか」

・「〇〇に相談しては」「こちらから連絡を取りましょうか」

・「実際にその活動をしている方があるなら、あなた自身の目で見極めてみたらいかがですか」

・「あなたが活動の対象としようとしている方々のニーズをあなたはどのように考えていますか？」

・「ニーズに応えるために、あなた自身の経験や知識などをどのように役立てようとしていますか？」

・「現在のあなたの経験や知識をさらに高めることによって、活動の対象者は実施後にはより満足のいく結果が得られると思いませんか？」

4-3 学習成果活用を支援する相談の役割と機能

学習成果活用支援に関する研究は少ないが、活用の類型や活用支援の観点に関する研究が参考になる。また、これまでも行われてきた学習相談については、その機能や相談員に求められる資質・能力に関する研究が発表されている。そこで、これらと本試行調査を照らし合わせて考察する。

学習相談の機能は三つの機能・役割が挙げられており、これを学習成果活用支援と照らし合わせると次のように捉えることができる。

①学習者と学習資源を結びつける
　→　相談者と学習成果活用の場・機会を結びつける
②学習上の問題解決を支援する
　→　学習成果活用の上での問題解決を支援する
③学習計画の立て方、活動の方法、学習成果として評価するなど、「学習の仕方の学習」を支援する
　→　学習成果を活用した活動計画の立て方、活動の方法、活動の評価など、「学習成果活用の仕方の学習」を支援する。

相談者と学習成果活用の場・機会を結びつける役割・機能については、相談の過程で相談員からさまざまな案内情報が提供されていた。その表れとして、相談者3名の全てが「アドバイスを受けて、活動の場に関する調査や相談などの取り組みに役立った」と答えている。ただし、案内情報の提供だけでなく、活動に結びつくためにどのような支援があったか、あるいは必要であったかについて、相談記録をもとにより詳細な分析が必要である。

学習成果の活用の上での問題解決を支援する役割・機能については、特に相談者のCさんに対してさまざまな支援を行っている。Cさんが挙げた活動の内容が、その対象者や組織に対してどのような問題が考えられるか、アドバイスが行われた。ただし、他の相談者を含めて実践段階で考えられる問題をどこまで推測し、その支援を行ったかより分析が必要である。

学習成果の活用の仕方の学習については、活動プランづくりを支援することを通して行われていると言えるが、これまでの振り返りと自己評価などを自律的に掘り下げるなどをどのように支援できたか、より分析が求められる。一方で、活動の方法については具体的なアドバイスが多くされており、相談者のアンケート調査でも「役立った」と答えている。活動の実践を次に生かすための評価については、活動プランづくりの過程で達成目標を掲げPDCAを回すという学習には至っていない。

4-4 学習成果活用を支援する相談員に求められるもの

相談員に求められるものについても、学習相談における相談員の研究と照らし合わせて考察する。学習相談では次の四つの資質・能力が挙げられており、学習成果活用支援における相談員として次のように捉える。

①基礎的資質
　→　学習相談員に求められるものに加えて、働き方や地域社会の課題に対する知識が求められる
②情報収集・提供
　→　活動の場・機会に関する幅広い情報収集力・情報選択力などが求められる
③コミュニケーション
　→　学習相談と同様に、相談者のニーズの把握や、相談者の自己決定を促す力が求められる
④学習の仕方
　→　学習成果活用の仕方の学習を支援する知識・技術が求められる

基礎的資質については、学習成果活用の類型に沿った幅広い知識と理解が必要となる。本試行調査でも、ボランティア活動を出発点としながらも、ビジネスとしての発展を目指す者がいた。また、健康問題や子育て支援、高齢者の抱える問題解決など、幅広

い分野での活用を希望する相談が挙げられている。これらに対してそれぞれの相談員は、活用が考えられる対象者や組織とのニーズの整合性や調整に根気強く努力していた。その際、自らの経験や知識の範囲を超えることについて、対応が分かれたことは前記のとおりである。また、活動を希望する側と求める側のニーズを調整する力（調整力）についても、学習相談に比べてより広く対応することが求められると言える。

情報収集・提供の力についても、これまでの社会教育・生涯学習が対象とする範囲を大きく超えて、幅広い分野での活動機会・ニーズに関する情報を収集することが求められる。本試行調査では、三者ともに学校や公民館等の地域での学習ボランティア活動を目指すものであったが、学習成果活用の類型の観点では、働き方や就業・起業についても情報提供を行うとなるとさらに広がる。ただし、学校や公民館という活動の場であっても、テーマや内容は社会の様々な分野に関わることを考えると、情報収集・提供の範囲は広い。

情報収集・提供にあたっては、相談員個人で対応するだけでなく、人のネットワークを通した情報収集力も重要な力となる。

コミュニケーション能力について学習相談の考え方を準用すると、相談者の話を聞き、そのねらい、やりがい等の潜在的なニーズを聞き出す力、活動計画の作成と実践への取り組みを自己決定できるよう助言する力が期待されることになる。ここでのポイントは、「答えを誘導する」のではなく相談者自身がそれを探し出すことを前提とする点である。この点で本試行調査では、活動計画を具体化するための行動を促す助言や、再検討を促す助言を粘り強く行っている。その中で「誘導」したくなる葛藤が相談員に見られた。そのことは終了後のアンケート調査でも表れている。「聴く力」、「話す力」、「相手の考えを整理する力」が足りなかったと自身の課題を回答している。

活動の仕方の学習を支援する力について学習相談では、「自分に合った学習計画の立て方、学習の方法、自己の学習活動の状態を客観的に認識・評価し、必要に応じて学習活動を修正する方法などに関わる知識・技術」としている。本試行調査では学習成果を生かした活動計画づくりを対象として、これに役立つ知識・技術を評価することとした。つまり、上記の PDCA のうち Plan の部分について評価・考察するものである。具体的には相談者に自身の経験や学習を振り返り、自己理解し、学習成果として意味付けし、考えられる場・対象者と照らし合わせて活動プランを作成するという、一連のプロセスに取り組んでもらい、これを自律的に進めることができるよう学んでもらうというものであった。今回の試行調査では、相談員に対して各ステップに対応したワークシートに沿って進めていただくよう説明しているが、それぞれのステップでどのように対応するか細かく規定せず、相談員の考えに任せている。実際に一連のプロセスを終了したのちに、相談者の取り組みにどのように役立つことができたか、それぞれのステップに対応した 10 項目について相談員にアンケート調査を行っている（図　　）。その結果は前記の通りであるが、相談員として求められる力と自身の課題が現れていると見ることができる。この中で、相談者に対して自らの知識・経験を振り返り、それが他者や地域社会

に対してどのような意味を持つのか、自己理解を促すことについてはそれぞれの相談員はそれほど悪い評価ではないが、自己理解は学習成果を生かした活動を考える出発点になるだけに、その知識と技術は相談員として最も重要と言える。

4-5 学習成果活用支援プログラムに関する評価と課題

本試行調査のもう一つの目的は、学習成果活用支援プログラム（以下、支援プログラム）の問題点・改善点を探るものであった。実際に学習成果活用相談では窓口を訪れる市民の状況は様々である。相談者に応じて、相談回数や期間も個別に対応することになると予想される。また、対応する相談員や窓口も都度変わることを前提とする必要がある。そのような状況にあっても、相談対応に一定の質が求められる。このような観点から、「支援プログラム」の必要性も挙げられていた。「支援プログラム」は、平成 25 年に富山県で行った学習成果活用支援に関する実証的研究でプロトタイプとして開発したもので、地域学習プラットフォーム研究会が継続的に評価・改善を行っている（表 5）。この支援プログラムは、相談者の主体的な検討を前提として、相談者がこれまでの学習や経験、活動を振り返り、社会との関係性のなかで意味付けし、ニーズとの需給関係を模索する検討と行動を段階的に促すものである。また、そのプロセスを相談者自身が記録しながら検討するとともに、相談員との情報共有を図るためワークシートを活用する。

本試行調査でもこのプロトタイプを準用した。今回の試行調査では、相談員に初日にこの支援プログラムについての説明は行っているが、進め方についての研修は行われていない。このため、ワークシートの活用を含めて個々の相談員の裁量に委ねた形で実施された。ただ、「支援プログラム」を全く示さずに相談員の進め方に委ねて相談会を実施した場合、相談者・相談員の双方が、三者三様の不連続な検討に終始していたことも考えられる。

結果として、相談者が効果的にワークシートを記載するまでに至っていないものが見られ、相談員もワークシートを通した相談者の主体的な検討を促すための十分な活用には至っていない。その主な理由は、ワークシートの記載方法など「支援プログラム」の説明不足にある。そのような中でもいくつかの改善点が挙げられた。5 種類のワークシートを 3 種類程度に集約する案、個別相談会の期間、回数の見直しなどである（表 5）。

表 5　学習成果活用支援プログラム（プロトモデル）

ステップ	実施ねらい	実施方法
学習歴、活動歴の振り返り支援	経験（職業、職業以外）、学習歴の俯瞰と体系化	オリエンテーション 一斉相談会 個別相談会 個別メール相談
	経験の再評価（自己効力感、メタ認知）自己理解の促し	
モチベーション形成支援	地域の多様な場と学習成果の対比など	
	多様な価値観への気付きの促し	

目標づくり支援	具体化の促し	応援レター送付 実践プランレビュー会 実践プラン発表会 事後フォロー
	活動の場に関する調査、理解の促し	
	求められるコンピテンシーの検討	
実践プランづくり支援	行動の促し（自身による調査、訪問、相談、記録等）	
	小さな試行による評価、改善ステップアップの促し	

4-6 学習成果活用を支援する機関、行政からみた評価と課題

1　生涯学習センターからみた評価と課題

当センターでは、これまで数多くの学習機会や学習情報を提供することにより、様々な活動が生涯学習センターや地域の公民館等で行われてきた。その結果、習得された学びや経験などを他者に伝える場としては当センターにおける「ボランティア講師による講座」が、初めて講師デビューされる方にとっては、チャレンジしやすい講座としての位置づけとしており、一定の講師経験を有する方や講師歴はなくてもプログラムが作成済の方など講師としての一歩を踏み出した方の実践の場となっている。

しかしながら、今回の「学習成果を活用する出番づくり応援相談会（以後「相談会」)」では、講師を希望しているが、具体的に一歩を踏み出せていない方を対象としていることが、これまでセンターではできていなかったことであり、本市における生涯学習事業を展開していくうえで、新たな広がりをもつ施策といえる。

今回の応募者は３名と少なかったが、その原因としては①初めての事業であることから、市民への周知が不足している。②事業名から実施内容がわかりづらい等の課題があげられる。応募者からもそのような声が出ていた。また、今回、市内の各種機関や団体に趣旨を説明し、応募者の増に向けのアプローチを行ったが、時期が遅く今回事業に反映できなかった。しかし、次回の実施には応援していただけると考えている。また、さらに団体によっては説明時に新たな事業を共催で行う方向で検討に入ることができたのは一つの成果であったと考える。今後ともに各団体とは密にコミュニケーションをとる必要があると感じた。

相談会の説明会では、応募者の応募動機はまちまちで、プログラム作成まで配意しておられる方と、相談会の事業を把握できていない方もおられた。しかしながら、共通していることは、応募者は数々の知識や技術や経験をお持ちで、説明会で種々の具体例をあげ、今後の講師としての活動を視える化することにより、自分も何かチャレンジしてみようかという意思を持てっていただくことができ、さらに個別相談会をとおして、応募者がもたれている経験等を引き出し、それを他者に伝える方法について、必要なアドバイスをすることにより、新たな一歩を踏み出されることもできた。

その際に必要とされる相談受付員のスキルは、とても重要なファクターである。応募者が客観的に自分自身を把握しづらいこともあり、傾聴するとともにファシリテートをすることが必要とされると考える。今回は２名の相談員が対応したが、相談員の増とともにそれぞれの相談員のスキルアップも必要であると認識した。

今後は、今夏に第２回の相談会を実施すべく、検討に入る予定である。

この事業は行政として、予算や人員の削減に伴い直接実施できる事業の機会が今後減少する傾向にあると考えられるが、市民が各地域において、主体となって生涯学習を進めていくことにより、地域のつながりを醸成し、元気なまちへの一助となる試みであると考えており、難しい事業ではあるが、生涯学習センターとしても進めていきたい事業である。

久保裕美（茨木市立生涯学習センター所長）

2　生涯学習行政関係者からみた評価と課題

生涯学習センターや公民館では、学習成果の活用として学習ボランティア養成講座やボランティアバンク等の事業が実施されているが、本事業は、相談事業として「出番づくり」を「応援」するというユニークな発想の講座である。

事業は、初回に事業説明と茨木市における生涯学習事業の説明と活用の場の一つの例として放課後子ども教室の事例報告がなされた。続いて相談者と相談員との個別の相談会が開かれ、まとめとして全体で、相談者が今後の活動計画について報告発表するという流れで開催された。

今回、茨木市では初めて開催されたこともあり、市民にも参加者にも事業イメージが十分届かなかったと思われる。一般的に相談とは相談者と相談員のあいだで個別に行われるが、本事業では、個別の相談を含みながら、集団の講座として実施された。このような形式で実施されたことにより、事業の趣旨が参加者全体で共有され、相談活動の成果や課題が相談者と相談員の関係だけでなく、参加者の相互の交流を通じてふかめられた。実際、修了後に参加者同士で自然に話し合いの場がもたれていた。参加者同士でグループワークをやってみたいという意向もきかれた。

本事業の二つ目の特色は、相談活動があらかじめ用意された５つのワークシートによって進められたことである。ワークシート１は、これまでの自分について振り返り仕事や生活で経験したこと、学んできたこと、身に付けてきたことを整理し、関連する資料を集めること、ワークシート２はその中で生かしたいことをどこでどのような人に生かしていくのか対象を考えること、ワークシート３は、その相手にどのようなニーズがあり、ニーズに応えるためにはどのようなことが求められるのか考えること、ワークシート４は、ニーズに応えるため必要なこと、自分の経験やスキルに合わせてできることと

できないこと、補う必要のあること、そのための取り組みなどを考えること、ワークシート５は、これまでの検討をもとに活動を始めるためのプランをまとめるというものであった。相談から活用までを段階的に踏んでいくワークシートであるが、限られた相談回数や時間の中で、多くの人がワークシートに沿って発展的に展開するところまでは至らなかった。

その要因としてはいくつか考えられるが、第1 に、ワークシート１では、仕事や生活で学んできたことや身につけてきた事をまとめるという作業であったが、この段階の掘り下げがいずれも不十分のような気がした。たとえば、Ｈさんでは、これからやっていこうとすることが項目のみ書かれている。生かそうとする技術の学習歴や資格、仕事についての実績などをワークシートに落とし込んでほしいところである。ただ、最後の報告会では、仕事のことや定年退職を迎えて継続的な雇用を続けるかどうか迷われたこと、退職後の家族の介護やこどもの結婚などで大変であったことなども話されていた。最初から個人のさまざまな事情を聴くのはなかなか難しいことであるが、最初の段階ではワークシートに取りかかる前に相談員が聞き取りを主体に行うことがスムーズな関係づくりにとって必要ではないだろうか。人が活動に向かう場合の動機を確かめ合うことの大切さである。

第２には、ワークシート３の活動の対象である相手の状況やニーズについて考えるという作業がなかなか難しいと思われた。Ｓさんのように実際に放課後子ども教室の担当者を尋ねたり現場を見学したりすることが有効であったようである。このあたりは相談員の幅広い的確な情報提供が求められるところであろう。

相談は、ともすれば出口を探すために行きつ戻りつしがちである。今回の事業では、自分のできることをまとめること、それをどう生かしていくのか相手のニーズを含めて調べること、最後に活用プランという3 段階ぐらいのシートに精選してもよかったのではないかと思われる。シートをまとめることに意識が向い、自由に話し合うという面では実際のところどうであったのだろうか。

本事業の３点目の特色として、一般的な生涯学習相談の事業では、相談記録は相談員の側にのみ残されているのが通例である。どのように相談が受け止められたか効果の検証が難しい。本事業ではワークシートという形で相談者の側からも記述されていくため、記録の面からも相互的である。また、段階的にワークシートが構成されているために相談活動の入り口から出口までのステップがわかりやすく、かつ可視的である。そのため相談活動の成果が評価しやすいということが大きな特色である。また、相談員自身のふりかえりや相談スキルを高めていくためにも有意義な方法であると感じた。今回の相談員のうちお二人は、教員としての経歴、実績のある生涯学習センター職員と福祉施設で高齢者のIT 関係の事業を中心的に進めている方であったが、相談員として自覚的に臨まれた経験はあまりないようであった。そのため、戸惑いながら、それぞれの経歴や事業経験を活かし相談相手をつとめられたようである。特にワークシートの活用方法について事前の研修や第1 回の説明会等で丁寧な説明が求められるように感じた。

報告会では、それぞれの参加者が自分のできることと、実際生かせる場のニーズとの関係でみるとかなり具体性のあるケース、戸惑いながらも新たに活動を始められたケース、本人の思いと隔たりやずれがあるケースという典型的な事例が出てきており、継続的なフォローの必要性が感じられた。また、参加者に共通した特徴として、仕事を終えた世代が地域の活性化や高齢化や子育て支援など何らかの形で社会参加や貢献を志向しているというものであった。趣味等を生かしながら自分の居場所を求めたり、積極的な社会貢献やビジネスを考えるなど観点はそれぞれであるが、少子高齢社会のすすむなかで今日的な社会的意義を強く持っている。

生涯学習センターの現場の多くは、市民の社会貢献への意欲を受け止めながらも、それを生かしていくための相談や情報提供にうまく結びつけられないジレンマを感じている。その点で、本事業は、学習機会の提供と学習成果の活用、情報提供と相談という機能が相互に関係づけられ、循環していく一つの契機となっていた。幸い茨木市は生涯学習センターや公民館などの地域施設が充実しており活動も活発である。福祉や学校の放課後子ども教室も地域住民や民間団体の参加を受け止める基盤はできており、生涯学習センターの拠点機能として、このような市内のさまざまな事業や活動の相互の連携と市民協働・参加のコーディネートのために積極的な役割を果たしていく事がもとめられている。市民の皆さんの「やってみたい」から出発する本事業の充実発展を期待したい。

岡本和夫（大阪市立総合生涯学習センター前所長）

3　大学の生涯学習教育機関からみた評価と課題

茨木市生涯学習センターにおける茨木市出番づくり応援相談会」という事業は、「相談」を配置し住民の学習相談に関わることで学習成果を地域社会で積極的に活用しようとする 試みで、今後の地域生涯学習推進を図る上で極めて重要なものである。

茨木市の例から離れるが、今日住民の学習成果の活用を図る上で学習相談事業が重視されてきているが、その「相談員」に求められることは、（１）住民の学習ニーズを的確に把握すること、（２）相談内容に即して、学習の成果を活かす機会や学習を継続・発展させる学習機会について情報提供すること、と言えよう。そこでは、自然科学・人文科学・社会科学の多方面にわたる研究成果についての理解が必要とされるとともに、人間とりわけ成人の成長発達についての理解が求められる。

学習者は、今日インターネットで「学習機会」についての情報検索が可能となる中で、「学習相談」に期待することは、自己の学習活動の到達点やそれを踏まえた学習成果を活用する具体的な「場」についての情報提供・アドバイスが欲しい、ということが多くなる。近年、高齢者にも次第に就労の機会が開かれるようになってきており、また、地域課題・生活課題に取り組むボランティア・ＮＰＯ活動なども活発化してきていることから、「学習成果の活用」の可能性は、従来より拡大してきていると考える。

住民が学習活動を継続して行く上でポイントとなることは、「学び～実践（学習成果の活用）～学習」のサイクルを確立することである。その意味では、公民館などの社会教育施設、高等教育機関、行政、ＮＰＯ、民間企業などが連携し、地域における多様な学習機会や学習成果を活用できる機会が「生涯学習プラットフォーム」（仮称）としてシステム化される仕組みをつくることが重要である。重ねて、現代の社会背景、地域の状況、地域住民である学習者とのマッチングについても視野に入れていくことは、必要な要因でもあると考える。

多くの大学では、「公開講座」や「授業公開」などの「学習機会の提供」を行っている。また、近年、「学び直し」を希望する人も増えている。その意味では、大学が、幅広い世代に対応できる「生涯学習機関」となっている、ということができる。今後、現役世代のスキルアップや地域住民の学習要求・資格取得などの多様な要求にも積極的に「開放」されることが求められていると考える。

学習者側の視点では、大学を利用して学ぶ住民にとって、高等教育機関としての魅力と受講者同士の社会的な交流が大きいものと考える。受講者同士の交流を通じて、「学習機会」についての情報収集や、学習した内容についての確認がなされたり、成果活用についての情報・経験交流などが行われている。これまでの人生を基礎として交流なども行われている。

しかし、こうした交流を社会的にシステム化する必要がある、と考える。いわば、自然発生的な受講者同士の交流だけでなく社会教育・生涯学習に係わる専門職員あるいはそれに準じた知識・技能を有する人が「相談員」として学習者をサポートすることが必要とされている。そして、より専門的な学習相談の技量が求められることになる。

学習した成果が社会的に活用されることは、学習者個人にとっては自己実現・成長・生活の充実などに結びつくことであり、同時に社会的には企業などでの有能な働き手としての就労に結びつける、あるいは様々な場面におけるボランティア、NPO 等の活動で地域課題：生活課題の解決に取り組む、そうした人材育成になるという意義を持つ。

また、障害者や認知症患者などが地域で「コミュニティ・カフェ」を開設する取り組みも生まれていることからしても、学習成果の活用は、行政・福祉団体・企業・地域住民などとの連携によって、多様な場面で追求されてきている。

改めて、今回茨木市生涯学習センターが試みた「学習相談事業」について振り返ってみると、相談者３人相談員３人と人数は必ずしも多くはないものの公募に応募した積極的な意志があり、また、２月に事業説明会開催し４月に「発表会」を開催するという時間的な制約も大きい中で、一定の成果を上げていると考える。

同時に、いくつかの課題があることが明らかになっているが、それはこの事業を推進しさらに「学習成果活用支援」を図る上でクリアすべき課題が明らかになった、ということである。

成果として、従来「学習成果の活用」としてのボランティア活動の枠を超えた「出番づくり応援相談」という事業を進める中で、今後の地域生涯学習推進という意味で「相談員」および学習者を育成することが重要である、ということが証明されたことである。また、学習者がこれまでの経験・学習活動を振り返ることを通じて学習成果の活用の方向性を絞り汲み、「成果活用」の場を相談者が見つけている、という作業をしていることも重要である。さらに、相談員として対応しながらも、相談者と接することで、自ら課題を発見し、多くの学びを得ていることも察するところがあることも成果の一つである。

課題としては、相談員つまり相談を受けている側の専門的力量の向上が必要ということが指摘できる。今回「相談員」役を担っている側は、いずれも社会教育・生涯学習の学習相談の相談業務について、専門的にトレーニングを重ねていた経験者（いわゆるある一定期間に渡っての社会主事経験者）ではないこともあり、相談者に対してのアドバイスについて、厳しい自己評価をみることができる。「相談者」と「相談員」の関係性にもとまどいを感じているところもあったようにみることができる。

もし、社会教育主事として経験、専門的なトレーニングを重ねて、相談員としての役割を担っていた場合考えると、結果として異なっていた可能性もあるように考える。将来的に社会教育士と称することができるようになった資格取得者が、相談員を担っていく可能性にも期待したいところである。

今回のケースは、共同作業という形で交流を深めることが必要だったのではないかとみることもできる。時間的な制約もある中で、相互の信頼関係をどのように構築させていくのか、ということがポイントになるとも考える。

また、学習者の「学習ニーズ」や「成果活用」の場面について、できるだけ正確に、客観的に表す方法も検討される必要がある。

関連して、大学では、「社会教育主事講習」を実施しており、社会教育・生涯学習の専門職員の養成、スキルアップの研修も対応している。また、図書館司書や博物館学芸員の養成を行っている大学も多い。社会教育専門職員に対して、多様に対応している。さらに、多様な地域課題・生活課題の課題解決に向けた研究を行っている研究者も多分野にわたって対応できる人材も豊富である。こうした大学が持つ機能を自治体、地域における学習成果活用に向けた「学習相談事業」に活かしていくこと、そして活かせる仕組みをつくることが急務である。

現状として、大学と地域の生涯学習を推進する機関・施設との連携がより必要とされてきている。学習者から成果活用を希望する人を公募するにしても、相談員の専門的力量を向上させるための「研修プログラム」を開発する上でも、この視点はとても重要である。そして、学習機会を提供していくことだけでなく、スッテップアップした「地域生涯学習の推進」に寄与することができるものと考える。

追）専門的にトレーニング重ねて、生涯学習者の背景、地域課題・生活課題、学習者相談として、カリキュラムとして系統的に学習している資格取得者は、現状としては、社会教育主事資格取得者、将来的には社会教育士と称したものが、相談員として期待できるところもあり、今回記述内容に入れ込みました。

藤田公仁子（富山大学地域連携推進機構教授）

5　今後に向けて

本試行調査の結果と考察をもとに、今後に向けて次のような課題に取り組む。

支援プログラムについては、まずはこれまでに開発・試行してきたものを準用した。限られた実施期間と本務を持つ多忙な相談員に任にあたっていただいたことから、支援プログラムについて相談者・相談員ともに十分に理解されていなかった面があった。また、個別相談会の回数や時間が足りなかったとの意見も挙げられている。これをふまえつつ、これまで富山県で実施した際の結果と対比し、支援プログラムの改善点を検討する。また、今後の実施にあたっては、相談者・相談員のそれぞれに支援プログラムの理解を十分に得る時間を確保したい。

相談員の役割については、支援プログラムに沿って対応することとし、今回はそれぞれの経験や考えに委ねて実施した。前述のように、相談員として実際に任にあたった中でさまざまな自己評価と問題点を挙げていただいた。この問題点こそが今後の相談員の養成にあたって検討すべき課題であり、本試行調査によって得られた貴重な情報である。これらについての考察や、生涯学習センター、生涯学習行政、大学等の機関からみた相談員の役割と期待をふまえ、相談員の養成プログラムの開発に結びつけていきたい。

これらをふまえて、平成 31 年 2 月より茨木市のご協力のもと第 2 回の試行調査を実施することとしている。支援プログラムの改善を行うとともに、事前に相談員の研修会を開催し、今回の実施結果と比較・分析することで、その効果や課題を検証する。

（1）支援プログラムの発展的改善

・個別相談会の回数や期間の設定を見直す
・ワークシートの改善
・支援プログラムの事前説明の実施

（2）相談員研修会の実施

・相談員の役割、相談における立ち位置
・支援プログラムの基本的な考え方、進め方
・ワークシートの活用方法
・自己理解を促す技法ほか本試行調査で挙げられた相談員に求められる知識・技術に関する研修
・相談者とのコミュニケーション技法
・スマートペンによる相談記録の方法

（3）相談会の再試行と比較評価

・募集方法の工夫
・相談員の確保

第 2 回についても相談会への参加者を募集する形で実施する予定であるが、より実践の場面を考えると、生涯学習センター等の窓口での随時対応と、参加者を募集して一斉に開催する方法の二つとなる。いずれも初期の切り分けがなんらかの形で行われ、その後の支援を支援プログラムのどのフェーズから始めるのか、どれを補うのかなどの対応分けが必要となる。さらに、「潜在的な希望者」を相談機会に誘引する観点も重要である。これらについても機会を得て踏み込んだ研究を行っていきたい。

学習成果の活用を積極的に支援することが求められながらも、これを支援するプログラムや相談員の役割・機能についての研究と実践はあまりみられない。市民が学習成果を活用するための相談を積極的に受け入れ、その記録を分析し、支援ノウハウの蓄積と相談員の養成に生かそうとする視点もこれまでみられなかった。相談記録が残されていない、あるいは内在していることもその理由だった。

本試行調査はこのような問題意識の中で取り組みを始めたものであるが、試行調査における相談者、相談員ともに貴重なケースとしながら、今後も実際の相談の場におけるケースの蓄積と分析、および改善に地道に取り組んでいきたい。

謝辞

本試行調査は、茨木市の協力と共催により成り立ったものです。学習成果の活用支援が、今後の生涯学習推進と地域の発展に必要との共通理解のもと、試行調査の実施にご努力いただきました茨木市立生涯学習センター久保所長、市関係者の方々、および多忙な本務の中、相談員としての任にあたっていただきました御舩氏、中村氏に感謝申し上げます。また、茨木市での実施の仲介をいただきました今西先生に感謝申し上げます。

さらに、本試行調査のアドバイザーとしてさまざまな知見をご提供いただきました岡本様、藤田先生、近藤様に感謝申し上げます。

最後に、本試行調査に至るまで長期にわたり、学習成果活用支援に関する研究を支えていただいている、地域学習プラットフォーム研究会の会員の方々に感謝申し上げます。

資料編

主催：茨木市 市民文化部 文化振興課 生涯学習センター

次なる茨木へ。

あなたの学び・経験を活かして活動の主役に！

学習成果を活用する 出番づくり 応援相談会 参加者募集！

こんな人はぜひご参加ください！
働きながら地域に何ができるか考えたい人
退職後に自分の経験を生かして仲間づくりをしたい人

生涯学習センターがあなたを応援します！

2月21日（水）
午後1時30分～3時30分
会場：生涯学習センター402

「出番づくり」応援プログラムとは？

社会人ネットワーク
講座
人材情報
あなたのこれまでの学び・活動・経験
資格
趣味特技
学習機会
経験

学ぶことがゴールではなくせっかくの成果を生かしませんか？

まちや地元の元気づくりに参加したい！
伝統や文化を次世代に伝えたい！
きらめき・公民館・学校でのボランティア講師に挑戦！
仲間づくりや活躍の場のリサーチ！

発表

活動のプランづくり

あなたが活躍できる「出番」は無限大∞！

地域
公民館
コミセン
生涯学習施設
企業
教育機関 等

出番の具体例
生涯学習センターボランティア講師による講座、放課後子ども教室
公民館・コミュニティセンター等の講師など

相談会に参加して活動プランづくりを始めてみませんか？

対象となる方
働きながら地域に何ができるか考えたい人
同じテーマを持つ活動の仲間づくりをしたい人
退職後のこれからの自身の活動について考えてみたい人

応援プログラムの詳細は裏面へ！

★参加無料　★一時保育（満1歳～未就学児）あり

申込方法

2月1日午前9時から 電話、FAX（裏面用紙）または直接
生涯学習センター（tel.**072-624-8182** / fax.072-622-1268）まで
茨木市畑田町1-43（中央図書館北隣）
※一時保育（有料）は2月12日までに要申込

取組フロー

参加の流れ

まずは説明会にご参加ください。あなたがこれまで培われたことが、ほかの人や地域に役立つ可能性が見えるかもしれません。同じ分野で一緒に活動できる「仲間」が現れるかもしれません。

応援プログラムへの参加

活動プランづくり
①学習や活動実績の整理
②目標の検討
③目標に向けた取り組みを検討
（活動場所・調査・相談等）
④活動プラン・発表資料の作成

活動プランの提出（3月上旬）

受付・評価

発表会・評価（3月開催予定）

関係機関への広報

応援プログラム

出番づくり応援相談会

日時：平成30年2月21日（金）
午後1時30分～3時30分
会場：生涯学習センター402

①応援プログラムの説明
②事例紹介
③意見交換会

応援プログラム参加受付・応援開始

個別相談会：活動プランづくりに関する相談・アドバイス

活　動

あなたの学びや経験を生かした出番を創出

出番づくり応援相談会
FAX申込票

生涯学習センター
fax.072-622-1268

受付開始：H30.2/1　9：00～

フリガナ	性別
氏名	男・女
住所	
電話番号	年齢　＿＿＿十代
Eメール	

一時保育　　希望する　・　希望しない　※1歳～就学前（有料）

アクセスマップ

「出番づくり応援相談会」

ワークシート１　　氏名

「学びを活かすワークシート」を参考に、**これまでの自分**について振り返り、仕事や生活で経験してたこと、学んできたこと、身に付けたことを箇条書きにし、関連する資料を集めましょう。

分野	概要 （経験、実績、続けていること）	生かしたいこと

「出番づくり応援相談会」

ワークシート 2　　氏名

　ワークシート１の「生かしたいこと」を、どこでどのような人に生かすか、

対象を考えてみましょう。

生かしたいこと	対象（人、場所）	どのような期待に応えられる？

ここでは目標を考える段階とし、その方法はこのあと検討します。

「出番づくり応援相談会」

ワークシート 3　　氏名

　ワークシート 2 をもとに、生かしたい人や場所について調べてみましょう。

どのようなニーズがあり、ニーズに応えるためにはどのようなことが求められるか、考えてみましょう。関連する施設に出かけて調べてみることも方法です。

対象	ニーズ	ニーズに応えるために必要なこと

「出番づくり応援相談会」

ワークシート 4　　氏名

　ワークシート 1、2 および 3 をもとに、生かしたい相手のニーズに応えるために必要なことと、自身の経験やスキルを照らし合わせ、できることとできないこと、補う必要があることを考えてみましょう。

また、そのための取り組みと期間を考えてみましょう。

対象	できること、できないこと、補う必要があること	できるようにするための取り組み（方法、期間）

ワークシート 5　　氏名

これまでの検討をもとに、活動を始めるためのプランをまとめましょう。

活動プランはいくつかの段階（すぐにできること、学習や経験を積んでそのあとに取り組みたいこと）に分けて考えることも方法です。また、一人では難しい活動は、仲間を集めて一緒に取り組むことも考えられます。

対象	活動の概要	取り組み （方法、期間）

「出番づくり応援相談会」

説明会後から発表まで

説明会

さまざまな活動の方法があることを知り、
自身の経験・学びを活かす機会を考える。

帰ってからすぐ

ワークシート1、2

これまでの経験・学びを振り返る。
どのような人や場所に活かせるか考える。

第1回相談会（　月　日）

ワークシート3、4

○活かしたい人・場所の理解
○活かしたい人・場所のニーズと自身の経験や学びとの照らし合わせ（目標の再考）
○目標に向けて取り組む課題の検討

第2回相談会（3月　日）

ワークシート4、5

○目標化のレビュー
○目標に向けての進め方、期間、体制等のプランの検討
○活動プランの記載

活動プランの提出（3月　日まで）

提出先：

提出方法：

ワークシート5

発表会（3月　日）

日時：

場所：

「出番づくり」応援プログラム　相談記録シート

相談者 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　相談員

日付	相談内容	アドバイス、コメント、その他対応

「学んできたことや経験を生かした活動」に関するアンケート調査について

（ご協力のお願い）

特定非営利活動法人

地域学習プラットフォーム研究会

　これからの生涯学習では、一人ひとりが学んできたことや多様な経験が評価され、地域社会の中で生かされることが望まれています。（教育振興基本計画）

　そこで、当研究会では茨木市生涯学習センターと合同で、学習成果を活用する「出番づくり応援相談会」を開催することとしました。この事業では、皆さんの学習成果の評価や地域社会での活用をどのように支援することが効果的か、検討していくことにしています。

　つきましては、趣旨をご理解いただき、「学んできたこと、多様な経験を生かした活動」について、アンケート調査にご協力いただきたく、お願いいたします。調査は無記名です。----------

＊ **それぞれの質問について、当てはまる□にレ印を付けてください**
あなたについてお答えください。

年代　□10 代　□20 代　□30 代　□40 代　□50 代　□60 代　□70 代　□80 歳以上

□男性　　□女性

問１　あなたはこれまでどのような場で学んできましたか？（複数回答可）

- □ 生涯学習センター
- □ 大学
- □ 公民館
- □ 図書館
- □ 放送大学
- □ 各種専門学校
- □ 通信教育

□ インターネットによる学習
□ その他　（　　）

問２　あなたは、学んだことや経験がこれまでどのように生かされたと思いますか？

□ さまざまな形で生かされた
□ ある程度生かされた
□ 少しは生かされた
□ あまり生かされたとは思わない
□ 全く生かされていない

問３　上記問２で「生かされた」とお答えの方は、次のどのような形で生かされましたか？

（複数回答可）

□ 講師の依頼を受けた　　＊次ページに続きます
□ ボランティア活動で役立てた
□ 職場で自身の仕事に役立てた
□ その他で役立てた
（　　）

問４　上記問２で「生かされた」とお答えの方は、その事例をご紹介ください

【地　域】　　【機関等】

【概　要】

【役　割】

＊<u>以下の質問はすべての方がお答えください</u>

問５　あなたは、学んできたことや経験を今後何らかの形で生かしたいと思いますか？

□ 強く思う
□ 思う

□ 考えてみたい
□ 分からない
（理由：　　）
□ 思わない
（理由：　　）

問６　上記の問５で、「強く思う」「思う」「考えてみたい」のいずれかをお答えの方は、どのような形を考えますか？（複数回答可）

□ ボランティアとして
□ 講演や講座の講師として
□ 新たなグループを作って活動
□ ビジネスとして
□ その他
（　　）

問７　上記の問５で、「強く思う」「思う」「考えてみたい」のいずれかをお答えの方は、どのような場で生かしたいと考えていますか？（複数回答可）

□ 地域の公民館などで学び合う場を作りたい
□ 学校で子どもたちに伝えたい
□ 青少年教育施設などで子どもたちの学ぶ機会を応援したい
□ 放課後子ども教室でボランティア活動したい
□ 生涯学習センターで教室を開きたい
□ インターネット市民塾で講座を開きたい
□ ＮＰＯ団体の活動で生かしたい
□ 地域の自治会の活動で生かしたい
□ 高齢者の集まりなどで元気づくりに生かしたい
□ 自身の仕事に生かしたい
□ その他　（　　）

問８　あなたは、学んできたことや経験を生かすために具体的に取り組んでいることはありますか？（複数回答可）

□ 今までの学習や経験を何らかの形で記録し、振り返ることができるようにしている
□ 地域の課題などを話し合う場に出かけている
□ 活動の仲間作りを行っている
□ ボランティアや指導者養成など、人材養成につながる講座等への参加
□ 地域課題や現代的課題の解決、地域づくりのセミナー等への参加
□ 職業やキャリア開発に生かすことにつながる講座等への参加

□ 企画書作成、経理、ICT 活用など、実務スキルを高める講座等への参加
□ その他　（　　）

問９　上記いずれかに参加したことがある場合、もっとも役立った講座をご紹介ください

【講座名】　　【機関名】

【目　的】

【成　果】

問１０　あなたは、学んだことや経験を生かすために、生涯学習センターや公民館などの機関に問い合わせや相談を行ったことはありますか？（複数回答可）

□ 生涯学習センターの窓口で相談したことがある
□ 地域の公民館等で相談したことがある
□ ボランティア支援機関で相談したことがある
□ 学校で相談したことがある
□ その他　（　　）
□ 問い合わせや相談をしたことがない

問１１　あなたは、これまで学んできたことや経験、実績を分かりやすく説明する資料を用意していますか？（複数回答可）

□ 経歴書などにまとめ、説明できるようにしている
□ インターネットのブログ、SNS などにプロフィールとしてまとめて発信している
□ その他　（　　）
□ 特に用意していない

問１２　上記の問１１で「用意している」方は、その資料等が機関での相談や問い合わせなどに役立ちましたか？

□ 大変役立った
□ ある程度役立った
□ 役立ったことがある

□ あまり役立たっていない
□ 全く役立っていない

問１３　あなたは学んだことや経験を生かして活動する場の情報を得ていますか？

（複数回答可）

□ 関係機関で情報を得ている（機関名：　　）
□ 広報等で情報を得ている
□ インターネットで情報を得ている
□ 知人などから得ている
□ 情報を得たことはない

問１４　あなたは、学んだことや経験を生かす取り組みを行う上で、どのような課題を持っていますか？（複数回答可）

□ 生かせるかどうか自身では分からない
□ 活動を行う時間的な余裕がない
□ 地域の中でどのような人材が求められているか把握していない
□ どのような人材が求められているかを聞く、問い合わせ先、窓口を知らない
□ 地域の課題や現代的課題に対して、どのような人材が求められているか分からない
□ 自身の知識、経験、ノウハウ、実践力を振り返ったことがない
□ 活動の仲間がいると自身の知識、経験を生かすことができる
□ 生かしたいが、生かす目標が具体的でない、あるいは願望に留まっている
□ 学んだことや経験を生かす力（企画、コミュニケーション力等）に不安がある
□ 生かすための相談の機会がない（少ない）
□ 活動の場を紹介してほしい
□ その他

アンケートは以上です。ご協力、ありがとうございました。

「出番づくり応援相談会」参加者の皆さんへ

「学んできたことや経験を生かした活動」に関するアンケート調査について

（ご協力のお願い）

特定非営利活動法人

地域学習プラットフォーム研究会

「出番づくり応援相談会」では、市民の皆さんに経験や学びの積み重ねを地域社会に生かす活動プランづくりを進めていただきました。応援プログラムでは、皆さんのこれまでの成果の振り返りとまとめ方、その成果を地域社会に生かす目標づくり、目標に向けてどのように取り組むか、関係機関等への相談も受けながら活動プランとしてまとめていただきました。

つきましては、相談会が、「学んできたこと、多様な経験を生かした活動」にどのような効果を期待できるか、アンケート調査にご協力をお願いいたします。調査は無記名です。

＊ それぞれの質問について、当てはまる□にレ印を付けてください
あなたについてお答えください。

年代　□10 代　□20 代　□30 代　□40 代　□50 代　□60 代　□70 代　□80 歳以上

□男性　　□女性

活動プランの作成　　□提出した　　□提出予定　　□提出の予定はない

問１　相談会に参加した現在、あなたは、学んできたことや経験を今後何らかの形で生かしたいと思いますか？

□ 強く思う
□ 思う
□ 考えてみたい
□ 分からない
（理由：　　）
□ 思わない
（理由：　　）

問２　上記の問５で、「強く思う」「思う」「考えてみたい」のいずれかをお答えの方は、どのような形を考えますか？（複数回答可）

□ ボランティアとして
□ 講演や講座の講師として
□ 新たなグループを作って活動
□ ビジネスとして
□ その他
（　　）

問３　上記の問５で、「強く思う」「思う」「考えてみたい」のいずれかをお答えの方は、どのような場で生かしたいと考えていますか？（複数回答可）

□ 地域の公民館などで学び合う場を作りたい
□ 学校で子どもたちに伝えたい
□ 青少年教育施設などで子どもたちの学ぶ機会を応援したい
□ 放課後子ども教室でボランティア活動したい
□ 生涯学習センターで教室を開きたい
□ ＮＰＯ団体の活動で生かしたい
□ 地域の自治会の活動で生かしたい
□ 高齢者の集まりなどで元気づくりに生かしたい
□ 自身の仕事に生かしたい
□ その他　（　　）

問４　あなたは、学んだことや経験を生かす取り組みを行う上で、これまでどのような課題を持っていましたか？（複数回答可）

□ 生かせるかどうか自身では分からないため、相談やアドバイスが必要
□ 活動を行う時間的な余裕がない
□ 地域の中でどのような人材が求められているか把握していない

□ どのような人材が求められているか、問い合わせや相談の窓口を知らない
□ 地域の課題や現代的課題に対して、どのような人材が求められているか分からない
□ 自身の知識、経験、ノウハウ、実践力を振り返ったことがない
□ 活動の仲間がいると自身の知識、経験を生かすことができる
□ 生かしたいが、生かす目標が具体的でない、あるいは願望に留まっている
□ 学んだことや経験を生かす力（企画、コミュニケーション力等）に不安がある
□ 生かすための相談の機会がない（少ない）
□ 活動の場を紹介してほしい
□ その他

問５　相談会の参加により、これまでの経験や学びの積み重ねを生かした活動プランづくりに、どのように役立ちましたか？（複数回答可）

□ 振り返りにより、経験や学びの積み重ねを生かす新たな目標を見つけた
□ 経験や学びの積み重ねを生かす目標が具体化した
□ 活動の場やアプローチ方法に関する相談、アドバイスが役立った
□ アドバイスを受けて、活動の場に関する調査や相談などの取り組みに役立った
□ すでに取り組んでいる活動をより充実させるための見直しに役立った
□ その他（　　）

問６　相談会の参加により、これまでの経験や学びの積み重ねの振り返りによってどのような効果を得ることができましたか？（複数回答可）

□ これまでの記録を整理しまとめることに役立った
□ これまでの経験や学びを自己評価することに役立った
□ 自己評価によって、さらに必要な学びに気付くことがあった
□ 自己評価によって、これまでの活動の課題を振り返ることがあった
□ 地域社会への新たな生かし方に気付くことができた
□ その他　（　　）

問７　相談会の参加により、これまでの経験や学びの積み重ねを振り返る際に、活動の記録や資料の保存は十分でしたか？（複数回答可）

□ 記録も資料も十分持っていた
□ 資料は保存していたが、それぞれの経験や学びについてどうだったか、自己評価や他者評価などの記録は残していなかった
□ 資料や記録は残してこなかったため、記憶に頼って振り返った面がある
□ その他　（　　）

問８　あなたは、今回の相談会に参加する前から、これまで学んできたことや経験、実績を分かりやすく説明する資料を用意していましたか？（複数回答可）

□ 経歴書などにまとめ、説明できるようにしている
□ インターネットのブログ、SNS などにプロフィールとしてまとめて発信している
□ その他　（　　）
□ 特に用意していなかった

問９　相談会の参加により、学んできたことや経験、実績について、その成果や社会的な意義を他者・関係機関に評価していただけるよう、まとめることができましたか？

□ 十分できた
□ 必ずしも十分とは言えないが、他者・関係機関に説明する際の資料に活用できるよう、ある程度はまとめた
□ まとめることができなかった

問１０　あなたは、相談会に参加する前から、学んだことや経験を生かすために生涯学習センターや公民館などに問い合わせや相談したことはありますか？（複数回答可）

□ 生涯学習センターの相談窓口で相談したことがある
□ 公民館で相談したことがある
□ ボランティア支援機関で相談したことがある
□ 学校で相談したことがある
□ その他　（　　）
□ 問い合わせや相談をしたことがない

問１１　相談会の参加をとおして、学んだことや経験を生かすために、生涯学習や公民館などの機関に、新たに問い合わせや相談をしたことはありますか？（複数回答可）

□ 相談会で相談した（　　回）
□ 生涯学習センターの相談窓口で相談した
□ 地域の公民館で相談した
□ ボランティア支援機関で相談した
□ 学校で相談した
□ その他　（　　）
□ 問い合わせや相談をしなかった

問１２　上記で何らかの相談を行った際に、これまで学んできたことや経験、実績について、その成果や社会的な意義をまとめた資料が、相談や問い合わせなどに役立ち

ましたか？

□ 大変役立った
□ ある程度役立った
□ 役立ったことがある
□ あまり役立たっていない
□ 全く役立っていない

問１３　相談会の参加をとおして、次の機関では、住民の参加、活動をどのような形で受け入れているか情報を得ることができましたか？（複数回答可）

□ 生涯学習センター
□ 公民館
□ 放課後子ども教室
□ 地域の小学校、中学校
□ ボランティア団体
□ その他　（　　）
□ 得ることができなかった

問１４　あなたは、学んできたことや経験を生かすために、今回の相談会に参加する前から具体的に取り組んできたことがありますか？（複数回答可）

□ 地域の課題などを話し合う場に出かけていた

□ 活動の仲間作りを行っている
□ ボランティアや指導者養成など、人材養成につながる講座等への参加
□ 地域課題や現代的課題の解決、地域づくりのセミナー等への参加
□ 職業やキャリア開発に生かすことにつながる講座等への参加
□ 企画書作成、経理、ICT 活用など、実務スキルを高める講座等への参加
□ その他　（　　）

問１５　相談会の参加をとおして、これまで学んできたことや経験を生かすためにこれから新たに取り組もうとしていることがありますか？（複数回答可）

□ 地域の課題などを話し合う場に出かける
□ 活動の仲間作りを始める
□ ボランティアや指導者養成など、人材養成につながる講座等への参加
□ 地域課題や現代的課題の解決、地域づくりのセミナー等への参加
□ 職業やキャリア開発に生かすことにつながる講座等への参加
□ 企画書作成、経理、ICT 活用など、実務スキルを高める講座等への参加
□ その他　（　　）

アンケートは以上です。ご協力、ありがとうございました。

特定非営利活動法人

地域学習プラットフォーム研究会

http://shiminjuku.org/

(事務局)

〒930-0805 富山市湊入船町 3 番 30 号

KNB 入船別館 5F

e-Mail support@shiminjuku.org TEL 080-8695-0541(直通)